

令和4年度上半期 双海中山商工会地域景気動向

双海中山商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を半期毎に取りまとめ、本商工会地域の事業者の声を加え報告するものです。動向を測るため、期首（4月調査）と、期末（8・9月調査）を比較しています。


(1)愛媛県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめぐりにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、経済概況を抜粋して掲載します。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和4年4月分）」より


<https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/040531kennaijousei.pdf>

1 経済概況

新型コロナウイルス感染症の影響により、一部で弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。 前回との比較 

○個人消費

全体としては緩やかに持ち直している。

前回との比較 


- 【百貨店・スーパー販売額】 前年同月比2.0%増、2か月ぶりに前年を上回る。
- 【専門量販店販売額】 家電大型専門店が5か月ぶりに、ドラッグストアは9か月連続で前年を上回る。ホームセンターは2か月連続で前年を下回る。
- 【コンビニエンスストア販売額】 4か月連続で前年を上回る。
- 【新車販売台数】 普通乗用車は7か月連続、軽乗用車は10か月連続で前年を下回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は弱い動きとなっている。

前回との比較 


公共工事は弱い動きとなっている。

前回との比較 

- 【新設住宅着工戸数】 前年同月比24.5%減少、4か月連続で前年を下回る。
- 【公共工事】 請負金額の前年同月比は33.8%増加、4か月ぶりに前年を上回る。

○生産活動


一部で弱い動きもみられるが、全体としては持ち直しの動きとなっている。

前回との比較 


- 【鉱工業生産指数】 前年同月比(原指数)17.6%上昇、6か月連続で前年を上回る。汎用・生産用機械、輸送機械、繊維等の業種で前年を上回る。鉄鋼、非鉄金属、電気機械の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、コロナ禍の影響が残るものの、持ち直している。今後も新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に、より一層注意する必要がある。

前回との比較 

雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。

前回との比較 


- 【有効求人倍率】 1.40倍と2か月連続で前月を上回り、10か月連続で前年を上回る。
- 【正社員有効求人倍率】 1.08倍と、11か月連続で前年を上回る。
- 【現金給与総額】 名目では前年比0.8%増、2か月連続で前年を上回る。

(資料) 愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢 (令和4年8月分)」より

<https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/041003kennaijousei.pdf>

1 経済概況

一部で弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

前回との比較 

○個人消費

全体としては緩やかに持ち直している。

前回との比較 

【百貨店・スーパー販売額】前年同月比0.7%増、5か月連続で前年を上回る。

【専門量販店販売額】ドラッグストアは13か月連続で前年を上回る。

家電大型専門店が2か月ぶりに、ホームセンターは6か月連続で前年を下回る。


【コンビニエンスストア販売額】8か月連続で前年を上回る。

【新車販売台数】軽乗用車は2か月連続で前年を上回る。


普通乗用車は11か月ぶりに前年を上回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は弱い動きとなっている。

前回との比較 

公共工事は弱い動きとなっている。

前回との比較 

【新設住宅着工戸数】前年同月比24.4%減少、3か月連続で前年を下回る。

【公共工事】請負金額の前年同月比は0.3%減少、2か月ぶりに前年を下回る。

○生産活動

一部で弱い動きもみられるが、全体としては持ち直しの動きとなっている。

前回との比較 


【鉱工業生産指数】前年同月比(原指数)7.1%低下、2か月ぶりに前年を下回る。

汎用・生産用機械、非鉄金属等の業種で前年を上回る。


石油・石炭製品、電気機械、鉄鋼等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、求人が求職を大幅に上回って推移している。今後も新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に、引き続き注意する必要がある。

前回との比較 

雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。

前回との比較 

【有効求人倍率】1.48倍と2か月連続で前月を上回り、14か月連続で前年を上回る。

【正社員有効求人倍率】1.14倍と、15か月連続で前年を上回る。

【現金給与総額】名目では前年比1.2%増、2か月連続で前年を上回る。

(2) 中小企業景況調査報告書【えひめ版】

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：令和4年度第1四半期（令和4年4月～6月期）

調査対象企業：149企業 **回答企業：**149企業

（製造業：30社 建設業：20社 小売業：43社 サービス業：56社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とDI値の関係

	快晴 ～30.1		晴 30.0 ～10.1		薄曇 10.0 ～▲10.0		曇 ▲10.1 ～▲30.0		雨 ▲30.1～
--	-------------	--	--------------------	--	----------------------	--	----------------------	--	-------------

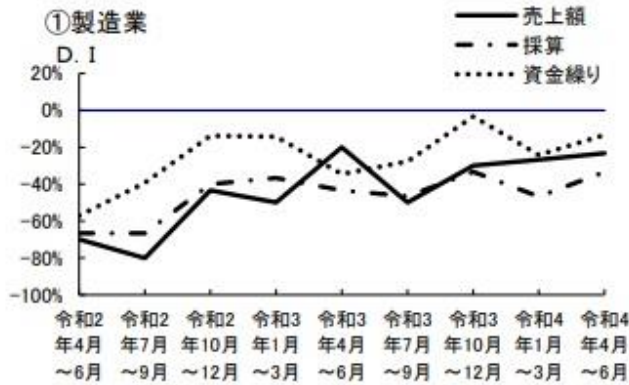
1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
				▲ 69.0		▲ 25.0		▲ 77.5		▲ 60.3	
	令和2年 4～6月期		▲ 55.2		▲ 20.0		▲ 65.9		▲ 54.2		▲ 48.8
	令和2年 7～9月期		▲ 41.5		▲ 20.0		▲ 64.2		▲ 37.9		▲ 40.9
	令和2年 10～12月期		▲ 39.3		▲ 20.0		▲ 53.7		▲ 34.5		▲ 36.9
	令和3年 1～3月期		▲ 40.0		▲ 25.0		▲ 51.2		▲ 28.1		▲ 36.1
	令和3年 4～6月期		▲ 43.3		0.0		▲ 42.9		▲ 43.1		▲ 32.3
	令和3年 7～9月期		▲ 33.3		▲ 15.0		▲ 57.2		▲ 39.7		▲ 36.3
	令和3年 10～12月期		▲ 51.8		▲ 30.0		▲ 66.7		▲ 53.4		▲ 50.5
	令和4年 1～3月期		▲ 13.3		▲ 25.0		▲ 51.2		▲ 21.4		▲ 27.7
	令和4年 4～6月期		▲ 10.0		▲ 25.0		▲ 41.8		▲ 14.3		▲ 22.8
	令和4年 7～9月期										

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向



<前期比>

売上額 : やや好転 (▲26.7→▲23.3 ポイント)

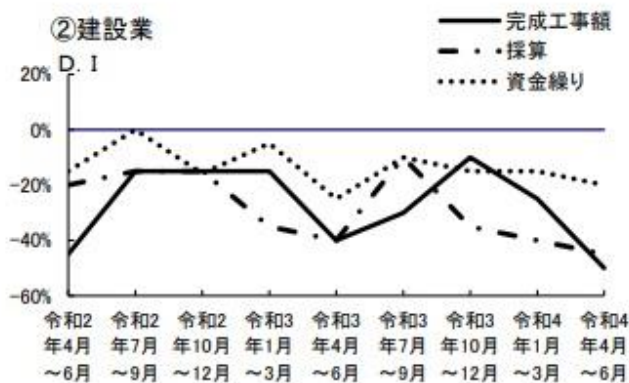
採算 : 好転 (▲46.7→▲33.4 ポイント)

資金繰り : 好転 (▲24.1→▲13.3 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 原材料価格の上昇 (50.0%)

2位 : 需要の停滞 (10.7%)



<前期比>

完成工事額 : 悪化 (▲25.0→▲50.0 ポイント)

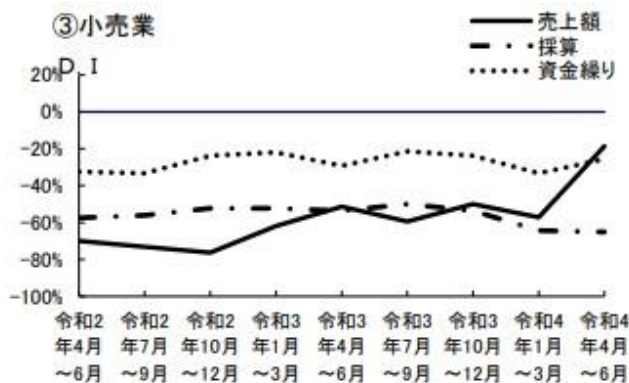
採算 : やや悪化 (▲40.0→▲45.0 ポイント)

資金繰り : やや悪化 (▲15.0→▲20.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料価格の上昇 (52.6%)

2位 : 従業員の確保難 (21.1%)



<前期比>

売上額 : 大幅好転 (▲57.1→▲18.6 ポイント)

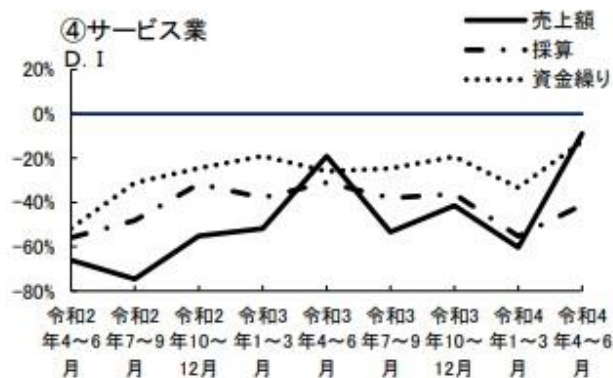
採算 : ほぼ横ばい (▲64.3→▲65.1 ポイント)

資金繰り : やや好転 (▲33.3→▲25.6 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 仕入単価の上昇 (35.0%)

2位 : 大型店・中型店の進出による競争の激化、
購買力の他地域への流出 (20.0%)



<前期比>

売上額 : 大幅好転 (▲60.4→▲8.9 ポイント)

採算 : 好転 (▲55.2→▲41.1 ポイント)

資金繰り : 好転 (▲33.3→▲12.5 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 材料等仕入単価の上昇 (32.7%)

2位 : 従業員の確保難 (14.3%)

調査対象期間：令和4年度第2四半期（令和4年7月～9月期）

調査対象企業：149企業 **回答企業：**149企業

（製造業：30社 建設業：20社 小売業：42社 サービス業：57社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

***記号とDI値の関係**

 快晴 ～30.1	 晴 30.0 ～10.1	 薄曇 10.0 ～▲10.0	 曇 ▲10.1 ～▲30.0	 雨 ▲30.1～
---	--	--	--	---

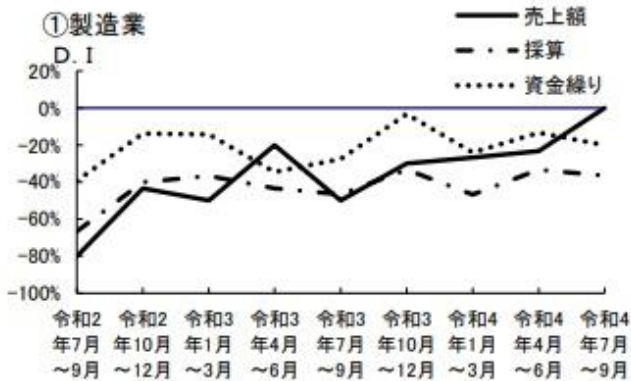
1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
	令和2年 7～9月期	 ▲ 55.2	 ▲ 20.0	 ▲ 65.9	 ▲ 54.2	 ▲ 48.8					
令和2年 10～12月期	 ▲ 41.5	 ▲ 20.0	 ▲ 64.2	 ▲ 37.9	 ▲ 40.9						
令和3年 1～3月期	 ▲ 39.3	 ▲ 20.0	 ▲ 53.7	 ▲ 34.5	 ▲ 36.9						
令和3年 4～6月期	 ▲ 40.0	 ▲ 25.0	 ▲ 51.2	 ▲ 28.1	 ▲ 36.1						
令和3年 7～9月期	 ▲ 43.3	 0.0	 ▲ 42.9	 ▲ 43.1	 ▲ 32.3						
令和3年 10～12月期	 ▲ 33.3	 ▲ 15.0	 ▲ 57.2	 ▲ 39.7	 ▲ 36.3						
令和4年 1～3月期	 ▲ 51.8	 ▲ 30.0	 ▲ 66.7	 ▲ 53.4	 ▲ 50.5						
令和4年 4～6月期	 ▲ 13.3	 ▲ 25.0	 ▲ 51.2	 ▲ 21.4	 ▲ 27.7						
令和4年 7～9月期	 ▲ 13.4	 ▲ 10.0	 ▲ 57.1	 ▲ 22.8	 ▲ 25.8						
令和4年 10～12月期	 ▲ 16.6	 ▲ 35.0	 ▲ 48.8	 ▲ 19.3	 ▲ 29.9						

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向



<前期比>

売上額 : 好転 (▲23.3→ 0.0 ポイント)

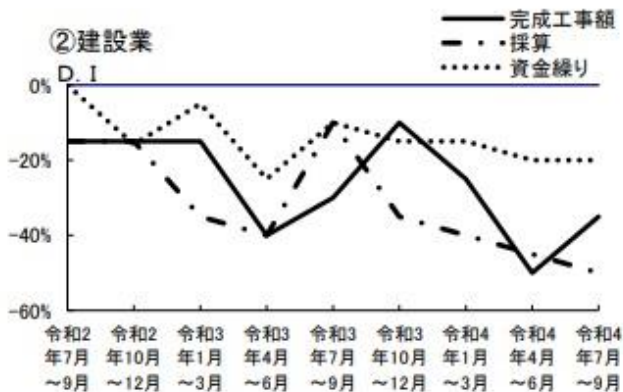
採算 : やや悪化 (▲33.4→▲36.6 ポイント)

資金繰り : やや悪化 (▲13.3→▲20.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位: 原材料価格の上昇 (36.0%)

2位: 需要の停滞 (12.0%)



<前期比>

完成工事額 : 好転 (▲50.0→▲35.0 ポイント)

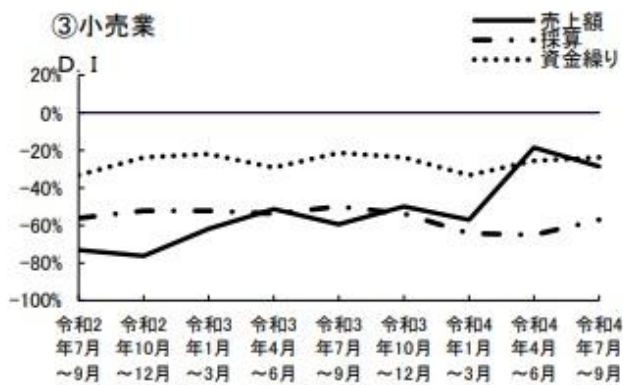
採算 : やや悪化 (▲45.0→▲50.0 ポイント)

資金繰り : 横ばい (▲20.0→▲20.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位: 材料価格の上昇 (63.2%)

2位: 従業員の確保難 (15.8%)



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲18.6→▲28.6 ポイント)

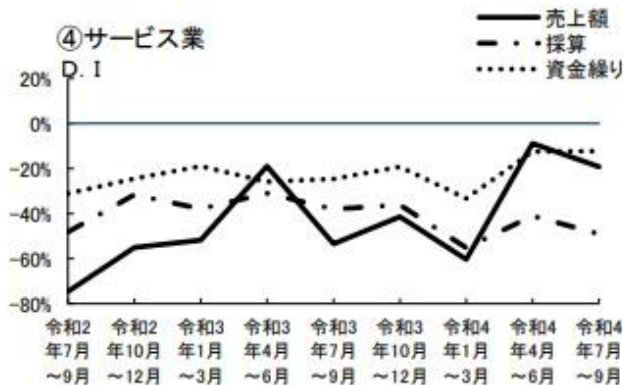
採算 : やや好転 (▲65.1→▲57.1 ポイント)

資金繰り : やや好転 (▲25.6→▲23.8 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位: 仕入単価の上昇 (42.1%)

2位: 大型店・中型店の進出による競争の激化、
購買力の他地域への流出、需要の停滞
(10.5%)



<前期比>

売上額 : 悪化 (▲ 8.9→▲19.3 ポイント)

採算 : やや悪化 (▲41.1→▲49.1 ポイント)

資金繰り : ほぼ横ばい (▲12.5→▲12.3 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位: 材料等仕入単価の上昇 (42.9%)

2位: 従業員の確保難 (12.2%)

(3) 中小企業景況調査

中小企業庁及び中小機構が、中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等のDI値※を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。約80%を小規模企業が占める日本の中小企業構造の実態を踏まえた唯一の調査です。

※DI・・・ディフュージョン・インデックス。前年同期比または前期比で、「好転」と回答した企業比率から「悪化」と回答した企業比率を引いた数値。

中小企業景況調査より、ポイントとコメントを抜粋して掲載しています。



2022年6月29日

第168回 中小企業景況調査

(2022年4-6月期)

調査機関：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

《調査結果のポイント》

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇した。

(1) 2022年4-6月期の全産業の業況判断DIは、▲14.4(前期差12.2ポイント増)となり、2期ぶりに上昇した。

(2) 製造業の業況判断DIは、▲12.7(前期差4.9ポイント増)となり、2期連続して上昇した。業種別に見ると、家具・装備品、繊維工業、食料品、パルプ・紙・紙加工品など10業種で上昇し、電気・情報通信機械器具・電子部品、印刷、窯業・土石製品など4業種で低下した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・4、5月は花見観光客、帰省客がコロナウイルスの影響を大きく受けた昨年より好転。遍路観光客も増加傾向のため売上は上昇する見込み。県主催の催事や引き合いも少しずつ増加しており、生産力の強化が必要。[食料品 愛媛]

(3) 非製造業の業況判断DIは、▲15.1(前期差14.5ポイント増)となり、2期ぶりに上昇した。産業別に見ると、サービス業、小売業、卸売業、建設業のすべての産業で上昇した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・昨年に引き続きコロナ禍の状況下ではあったが、大型連休は、観光客等入込客数は昨年の同期と比較し増加し、好景気感があった。今後、ウィズコロナに向けた対応が必要と思われる。[宿泊業 島根]

(4) 全産業の長期資金借入難易度DIは、▲5.5(前期差1.0ポイント増)と2期ぶりに上昇し、短期資金借入難易度DIは、▲3.4(前期差1.0ポイント増)と2期ぶりに上昇した。

<トピックス①>

全産業の原材料・商品仕入単価DI(前年同期比)は、67.4(前期差12.6ポイント増)と8期連続して上昇した。産業別に見ると、卸売業、サービス業、小売業、製造業、建設業のすべての産業で上昇した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・細かな仕事が増えつつある中、材料価格の上昇や入手難から見積り時より全体の金額が増加するも、請求時に割増の請求が出来ない状況がある。[建設業 岐阜]

<トピックス②>

全産業の従業員数過不足DI(今期の水準)は、▲18.5(前期差2.5ポイント減)と2期ぶりに低下し不足感が強まった。産業別に見ると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業、製造業で低下した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

・仕事はあるが、人手不足で思うように生産が出来ていない。特に、なれた研修生が帰国してしまい、新しい研修生もやっと入って来たが、人数も経験も足りないため、生産量が落ちている。[繊維工業 福井]

注1) 調査結果については、中小企業庁と当機構が共同で取りまとめました。

注2) DIは特に断りがない場合は前期比(季節調整値)による。

【調査対象企業のコメント】

- ・ 原材料の高騰で原価率が大きく上がったものもあり、安易な値上げもできないため、値上げ幅、タイミングに苦慮している。[飲食業 北海道]
- ・ 世界的な半導体不足と、大都市のロックダウン。また、船便の停滞等で、家電品が納品されていません。特に、エアコン、冷蔵庫、洗濯機が品薄です。[小売業 岩手]
- ・ 原材料価格の上昇で利益がのびない。また、部材が入荷されにくくなっている物もあり、高価だが、代替品を使う場合もでている。[金属製品 山形]
- ・ 引き合いが若干上向きになっているが、原材料不足の状況が変わらず仕様変更等に手間がかかっている。近い将来、状況が好転した際に対処できるよう、時間は要する人材育成に引き続き取り組んでいく。[電気・情報通信機械・電子部品 東京]
- ・ 2年間、中止になっていた行事が再開され始め、プログラム等の仕事が戻りつつありますが、デジタル化で無くなった仕事が少なからずある為、先行きは余り明るいとは言えないと思います。[印刷 神奈川]
- ・ 為替が円安傾向のため、原材料価格はかなりコスト高となっている。住宅価格も高くなっており、新築需要もこれから停滞するだろう。製品価格もかなり高い状態のため、価格転嫁は、いっそう厳しくなる。[木材・木製品 富山]
- ・ 細かい仕事が増えつつある中、材料価格の上昇や入手難から見積り時より全体の金額が増加するも、請求時に割増の請求が出来ない状況がある。[建設業 岐阜]
- ・ 仕事はあるが、人手不足で思うように生産が出来ていない。特に、なれた研修生が帰国してしまい、新しい研修生もやっと入って来たが、人数も経験も足りないので、生産量がおちている。[繊維工業 福井]
- ・ 新車の生産遅れで納車まちの状態が長く続き中古車までもが高騰している。在庫のたくさんある大型店に客が流れているようだ。[対個人サービス業 京都]
- ・ コロナ禍や地政学上の問題などによる商品の欠品、入荷遅延が続いており、解消のメドが全くつかない状況である。昨年来、早め多めの発注で在庫を増やし対応しているが、これ以上同様の状況が続くと非常に厳しい。[卸売業 大阪]
- ・ 半導体製造設備関連のプラスチック素材の引き合いが、活況な状態である。しかしながらこの活況の反動が、いつかは出てくるのではないかと、不安要素がある。[その他の製造業 兵庫]
- ・ 原材料の確保が困難であり製品の生産が滞り販売の機会損失が多くなっており、売上が一時的に減少傾向にあるが、原材料の確保が安定すれば、売上也向上すると予測している。[機械器具 鳥取]
- ・ 昨年に引き続きコロナ禍の状況下ではあったが、大型連休は、観光客等入込客数は昨年の同期と比較し増加し、好景気感があった。今後、ウィズコロナに向けた対応が必要と思われる。[宿泊業 島根]
- ・ 1月から3月までのまん延防止等重点措置が解除になり人の流れが少しずつ戻ってきたことと、原材料の値上げ前に駆け込みでの注文があり、前年同期よりは仕事はあるが、その反動が現在少し感じられる。[パルプ・紙・紙加工品 広島]
- ・ 原材料（特に生薬）の価格上昇と納期長期化がみられる。引き合いは多い。[化学 徳島]
- ・ 4、5月は花見観光客、帰省客がコロナウイルスの影響を大きく受けた昨年より好転。遍路観光客も増加傾向のため売上は上昇する見込み。県主催の催事や引き合いも少しずつ増加しており、生産力の強化が必要。[食料品 愛媛]
- ・ 最近ようやく受注回復のきざしが見えて来た。原材料の鉄スクラップの価格上昇が続き、値上げ交渉の毎日が続く。コロナ前と比較すれば70%程度しか戻っていない。[鉄鋼・非鉄金属 福岡]

第168回中小企業景況調査より抜粋

https://j-net21.smr.j.go.jp/report/smrjsurvey/tsdlje0000001alv-att/168th_houkokusho.pdf

第169回 中小企業景況調査 (2022年7-9月期)

調査機関：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

《調査結果の概要》

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。

- (1) 2022年7-9月期の全産業の業況判断DIは、▲19.5（前期差5.1ポイント減）となり、2期ぶりに低下した。
- (2) 製造業の業況判断DIは、▲15.2（前期差2.5ポイント減）となり、3期ぶりに低下した。業種別に見ると、化学、窯業・土石製品、印刷など4業種で上昇し、繊維工業で横ばいとなり、家具・装備品、木材・木製品、電気・情報通信機械器具・電子部品など9業種で低下した。
(参考) 調査対象企業のコメント(例)
・昨秋より材料の単価が軒並み上昇するとともに、調達したい電気部品などは逆に不足しており、非効率な生産現場となっていることが非常に厳しい。[電気・情報通信機械・電子部品 大阪]
- (3) 非製造業の業況判断DIは、▲21.0（前期差5.9ポイント減）となり、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。
(参考) 調査対象企業のコメント(例)
・行動制限のない夏期となり需要が延びてきているが、従業員の確保が難しく、今後の営業に影響が出る。又、材料費と光熱費の高騰が著しく、利益の確保が難しい状況である。[宿泊業 茨城]
- (4) 全産業の長期資金借入難易度DIは、▲6.2（前期差0.7ポイント減）と2期ぶりに低下し、短期資金借入難易度DIは、▲3.5（前期差0.1ポイント減）と2期ぶりに低下した。

〈トピックス①〉

全産業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）は、70.6（前期差3.2ポイント増）と9期連続して上昇した。産業別に見ると小売業、サービス業、卸売業、製造業、建設業のすべての産業で上昇した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

- ・生產品目の拡充と、昨年度実施した納入価格の改定により、前年度と比較して改善されてきたが、本年の原材料価格の上昇により、更に価格転嫁が必要な状況となってきた。また、従業員の処遇改善も重要な課題と考える。[化学 滋賀]

〈トピックス②〉

全産業の従業員数過不足DI（今期の水準）は、▲20.2（前期差1.7ポイント減）と2期連続して低下し不足感が強まった。産業別に見ると、建設業、製造業、サービス業、小売業、卸売業のすべての産業で低下した。

(参考) 調査対象企業のコメント(例)

- ・慢性的な人材不足に加えコロナの濃厚接触者等の急な欠員がでたり、繁忙期にうまく対応できなかった。また光熱費等の経費上昇で利益を圧迫し減益となっている。値上もこの状況でやりにくい。[飲食業 山口]

注1) 調査結果については、中小企業庁と当機構が共同で取りまとめた。

注2) DIは特に断りがない場合は前期比（季節調整値）による。

【調査対象企業のコメント】

- ・ コロナ禍が第7波と長引いている所にロシアウクライナ紛争で原料の小麦のみでは無く副材料も全て値上がりをしていて、とても単価を上げないと厳しい状況だがまだ出来ていない。[食料品 北海道]
- ・ 部品部材の値上げと在庫不足と納期遅延に対応するため、製品在庫ではなく生産するための部品等在庫を通常よりも過剰に抱え、コストUPになっている。[窯業・土石製品 岩手]
- ・ 需要が見込めても半導体の調達不安定のため、生産が止まる頻度が多く計画通りの稼働ができず苦慮しています。[その他の製造業 宮城]
- ・ 行動制限のない夏期となり需要が伸びてきているが、従業員の確保が難しく、今後の営業に影響が出る。又、材料費と光熱費の高騰が著しく、利益の確保が難しい状況である。[宿泊業 茨城]
- ・ 国内縫製業の業況は短期的には好転している。多くのアパレル企業がアジア諸国の賃金の上昇、為替の影響、国際情勢不安などから国内生産に切り替えている。[繊維工業 埼玉]
- ・ 客先へ度重なる材料費上昇のお願いにて、9月より一部改訂して頂ける所迄漕ぎつけた。前期決算は材料価格上昇が影響し大幅な赤字となった為、今後も物の価格が高騰してくる中で交渉を迅速に出来る体制を構築したい。[輸送用機械器具 静岡]
- ・ 年初から原材料価格が上昇し、顧客への価格転嫁までの自社負担が重く、利益を出すことが困難だった。ただ、顧客の値上げに対する反応は社会情勢の影響もあり理解を得やすかった。[印刷 石川]
- ・ 材料の入荷遅れと価格の高騰に苦慮している。材料は調達困難の状況から、在庫種類を増やしているため、在庫量は一時的に過剰となっている。[機械器具 岐阜]
- ・ 生産品目の拡充と、昨年度実施した納入価格の改定により、前年度と比較して改善されてきたが、本年の原材料価格の上昇により、更に価格転嫁が必要な状況となってきた。また、従業員の処遇改善も重要な課題と考える。[化学 滋賀]
- ・ コロナ以後の事業改革についての相談が多く寄せられていますが、熟練エンジニアの確保ができず、対応しきれない状況です。半導体不足で中規模以上のサーバーの納期に見通しが立ちません。[情報通信・広告業 京都]
- ・ 昨秋より材料の単価が軒並み上昇するとともに、調達したい電気部品などは逆に不足しており、非効率な生産現場となっていることが非常に厳しい。[電気・情報通信機械・電子部品 大阪]
- ・ 業況は好転しているものの、材料高騰や設備等入手困難により、工期の遅延が発生し収益は減少傾向にある。[建設業 島根]
- ・ 慢性的な人材不足に加えコロナの濃厚接触者等の急な欠員がでたり、繁忙期にうまく対応できなかった。また光熱費等の経費上昇で利益を圧迫し減益となっている。値上もこの状況でやりにくい。[飲食業 山口]
- ・ 需要の停滞もありますが発注があっても原材料の不足で製造ができない時もあります。原材料の価格は上昇を続けています。[家具・装備品 徳島]
- ・ 部品代タイヤ代オイル代、中には年に2回の値上がり。部品代はお客様に理解をしてもらう様にしているが、工賃はなかなか値上げするのが難しい。技術者も確保したいが人件費の事を考えると積極的になれない。[対個人サービス業 愛媛]
- ・ コロナ7波による客足減に加え、仕入価格も世界情勢により上昇している。また輸入の動きが鈍っていることで季節ものが入ってきにくく、売上に繋がらない状況があった。[小売業 福岡]
- ・ 仕入単価の上昇に加え、納期遅延が相次ぎ、引き合いに対して十分な売上が立たない状況にある。本来であれば売上の少ないこの時期に在庫を積み増したい所であったが、そこまでには至らず、需要期を迎える恐れがある。[卸売業 佐賀]

第169回中小企業景況調査より抜粋

https://www.smr.j.go.jp/research_case/research/survey/frr94k000000hs7-att/169th_4.pdf

(4) 双海中山商工会地区事業者の声

- ・ 機材などの仕入れ価格が高騰しているが、それを工事価格に転嫁できていない。利益を取ることが難しくなっている。(建設業)
- ・ 小麦の値段が高くなっているため、商品価格の改定を検討している。(飲食業)
- ・ 電気代ガス代が上がったが、昔ながらのお客さんが多く値上げしづらい。(理容業)
- ・ インボイス制度への対応に苦慮している。(建築業)

(5) 2022 年上半期景気動向 まとめ

2022 年 4 月時点では、緩やかではあるが持ち直しの傾向があり、9 月になっても大きくは変わっていないようです。先行きについては、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があると考えられます。持ち直しの傾向が見られるとはいえ、動きは弱く楽観視できる状況ではありません。

業種で見ると、製造・建設業は売上は好転しているものの、原材料の高騰のためか採算が悪化している様子がうかがえます。小売・サービス業は 2 期ぶりに売上・採算ともに悪化しています。当双海中山地区でも同様で、少子高齢化による需要減少も相まっていっそう厳しい状況です。